

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

■具体的な施策

- (1) 「学び」と「活動」による仲間づくり
- (2) つながりから生まれる地域への愛着・誇り
- (3) 学校と家庭・地域がつながる教育力の向上

■指標等

◎指標

指標			現状値	目標
			令和元年度	令和7年度
「学習活動を通じて、仲間や友人ができた」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》			45.4%	60.0%
「住んでいる地域や北九州市が好き」と回答した児童生徒の割合 《北九州市学力状況調査》	小5	実績	89.7%	前年度以上
	中2	実績	87.3%	
「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	実績	94.4%	全国平均以上
		国(実績)	95.2%	
	中3	実績	94.5%	
		国(実績)	94.3%	
「地域の行事に参加する」という児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	実績	71.9%	全国平均以上
		国(実績)	68.0%	
	中3	実績	59.2%	
		国(実績)	50.6%	
「子育てに関する悩みや不安を感じる」と回答した保護者の割合 《北九州市調査》	就学前児童		35.5%	現状値以下
	小学生		41.6%	
	中・高生		40.2%	
地域・子ども交流事業参加者数 《北九州市調査》			55,370人	前年度以上

◎モニタリング項目

○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の開催回数及び参加人数
○文化財に関する小学校等への出前講座開催回数及び参加人数
○各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数
○スポーツ観戦率
○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合
○家庭教育学級長向けアンケート満足度
○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）委員に参画している地域関係者の人数
○地域学校協働活動事業の実施校において、教育的効果があったと回答した学校の数
○青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数
○新科学館の入館者数
○地域・子ども交流事業開催回数

■取り組み

(1) 「学び」と「活動」による仲間づくり

① 「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり

本市における「生涯学習意識調査」の結果では、学習活動をしたことで良かったこととして、「学習を通じて、仲間や友人ができた」（45%）との回答が多くあります。

人と人とのつながりの希薄化等が進むなか、地域での見守りや支え合いの関係を構築していくとともに、地域や社会の様々な活動に参加しようとする機運を高めていく必要があります。

また、様々な場において、人が共に学んだり、活動したりすることはふれあいや交流を生み、仲間意識を強くします。

そのため、より多くの人が集まり仲間づくりにつながるよう、ライフステージに応じた学習機会や共通の課題・テーマに沿った活動機会を提供します。

また、子どもから高齢者まで世代を超えた縦のつながりが生まれるよう、地域において様々な交流の場を提供して仲間づくりにつなげていきます。

<主な事業>

○生涯学習市民講座

市民一人一人が健康で心豊かな生活を送り、生きがいづくりや生活に必要な知識、技術を習得するだけでなく、地域課題や社会的課題の解決につなげるため、各市民センター等で幅広い分野にわたる講座を実施しています。(令和元年度：69,165人参加)

[市民文化スポーツ局生涯学習課]



(2) つながりから生まれる地域への愛着・誇り

①シビックプライドの醸成(地域文化、生涯スポーツ)

人間関係や地域コミュニティの希薄化が進むなか、地域で共に学び、課題を共有したり、相互に認め合い、地域を思い、自主的に活動する中で生まれる人と人とのつながりから、地域に対する愛着や誇り、帰属意識が育まれます。

そのため、自らも当事者として地域づくりに意欲的に取り組めるような「学び」と「活動」の機会を提供し、シビックプライドの醸成を図ります。

≪①-1 文化振興によるシビックプライドの醸成≫

市民が地域において、歴史や伝統、優れた文化に関わることは、地域との結びつきを強め、そこに住む人同士の絆を育みます。そうした活動は、市民自身が住んでいるまちや働いているまちに「愛着」を感じ、「誇り」に思い、そしてこのまちに関わっている一人であるという当事者意識を持つことにつながります。

そのため、「伝統文化の発掘・継承」「文化財の保存・継承」などを通じて、本市の歴史や伝統、文化を、次代を担う子どもたちに引き継いでいきます。

また、市民が文化芸術に気軽に触れ、楽しむ機会を増やすことで、郷土を愛する心を育んでいきます。

<主な事業>

○文化・歴史の伝統継承

地域の文化や歴史を次世代に受け継いでいくことを目的として、市民や子どもを対象とした歴史・考古学講座を開講しています。また、小学校等を対象に、市内で発掘された出土品(埋蔵文化財)の実物に触れながら歴史を学ぶことができる出前講座を実施しています。 [市民文化スポーツ局文化企画課]



○博物館セカンドスクール事業

博物館を第2の学校として位置づけ、ミュージアムティーチャーによる体験学習の実施や学習プログラムの作成等に取り組み、理科・社会科への学習意欲の向上を図るとともに博学連携を推進します。特に、「博物館への誘致事業」、「学校教育支援事業」、「家庭教育支援事業」、の3つの柱をかけた、学校教育現場と博物館の結びつきを強めていきます。

[市民文化スポーツ局自然史・歴史博物館]

《①-2 スポーツの振興によるシビックプライドの醸成》

スポーツや健康づくりは、心身の健康保持や健康寿命の延伸だけでなく、青少年の健全育成、家族や仲間とのふれあい、地域コミュニティの再生・活性化などの礎となります。

そのため、ライフステージに応じたスポーツの機会を提供し、市民の「豊かなスポーツライフ」を支援します。

また、大規模スポーツイベントの開催や本市をホームタウンとするプロスポーツチーム等の市民観戦事業、体験教室の開催など市民がスポーツに親しむきっかけ作りを進め、スポーツを通じた元気なまちづくりにつなげていきます。

<主な事業>

○総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業

子どもから高齢者までスポーツを楽しむことができる総合型地域スポーツクラブが、市内に9クラブあり、各クラブで、スポーツ教室やイベントの企画・運営などを行っています。本市では、総合型地域スポーツクラブの育成・支援を行うことで、本市のスポーツレクリエーションの更なる普及・振興を図ります。

[市民文化スポーツ局スポーツ振興課]



○北九州マラソン開催事業

スポーツの振興を図るため、1万人規模のマラソンを開催します。また、全国から参加するランナー等への食のおもてなしやコース沿いに位置する観光資源を通して、本市の魅力をPRするとともに、シビックプライドの醸成を図ります。

[市民文化スポーツ局スポーツ振興課]



(3) 学校と家庭・地域がつながる教育力の向上

①家庭教育支援の充実

家庭は教育の出発点です。しかしながら、共働き世帯の増加、地域とのつながりの希薄化など、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭教育の支援をより充実していくことが求められています。

そのため、家庭教育関連事業を実施する関係部局間で連携し、家庭教育に関する啓発を図るとともに、学習機会を提供していきます。



また、仕事や子育てなどで忙しく、学習の機会に参加できない保護者に対し、ホームページやSNSなどのインターネットを活用して家庭教育に役立つ情報を効果的に発信し、家庭教育の支援を充実していきます。

＜主な事業＞

○キタキュー親力アップ漫画

子育てに奮闘する保護者に多い悩みにスポットをあて、いつでも、誰でも家庭教育の役立つ情報が得られるようウェブ漫画で子育てのちょっとしたコツやヒントを分かりやすく紹介しています。

[市民文化スポーツ局生涯学習課]



QR コード

②家庭・地域・学校の連携促進

虐待の事案などにも見られるように、支援が必要な家庭では、経済的・社会的・精神的困難などが複雑に絡み合っていることが多いと言われています。

こうした社会的な課題に対応していくためには、従来の学校と教育委員会における取り組みのみならず、家庭への働きかけや連携、地域の大学・企業・団体や専門的な人材等との協働、保健・福祉分野との連携が不可欠であり、関係部局・機関等の垣根を越えて、市民総ぐるみで子どもたちを支援する取り組みを進める必要があります。

特に最近では、地域が学校を支援する仕組みや体制の構築が図られており、今後はさらに、地域との連携・協働を進める取り組みを検討する必要があります。

そのため、引き続き、様々なボランティアと連携し、各学校の実情に応じて、地域全体で学校教育を支援する取り組みを進めます。

また、地域の方々や保護者などの声を取り入れ、更なる連携・協働を図り「地域とともにある学校づくり」を進めるため、学校の運営方針や運営に必要な支援等を地域とともに考える「コミュニティ・スクール」の設置を推進します。

<主な事業>

○コミュニティ・スクール、地域学校協働活動事業

「コミュニティ・スクール」設置の推進とともに、これまでの、地域が学校を支援する体制をベースに、地域と学校とが共通の目的・目標に向かって、協働して子どもたちの成長を支える仕組みを「地域学校協働活動」とし、一体的な推進を図ります。
[教育委員会学校経営・教育指導課]

③地域における子どもたちの発達・育成を促す環境づくりと体験活動の促進

少子化や地域コミュニティ意識の希薄化などにより、子ども会活動をはじめ地域における子どもの活動は全体的に低迷している状況にあります。

地域づくりの未来の担い手である子どもたちの育ちを地域で支えることが、地域の活性化につながっていきます。

また、子どもたちの豊かな人間性を育み、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」の基盤をつくり、子どもの成長の糧につなげていくことが求められています。

特に、世代間交流や体験活動には、豊かな人間性や主権者として自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の基盤をつくるとともに、身近な地域の課題を知り地域の構成員の一人として主体的に参画できる力を育むことが期待されています。

そのため、地域住民、子育て支援団体、NPO、企業など、地域の多様な主体が参画し、子ども会などの青少年育成団体と連携しながら、世代間交流・異学年交流や生活体験、自然体験、社会体験など、体験活動の充実を図り、地域全体で子どもたちの発達・育成を促す環境づくりに取り組みます。

<主な事業>

○生涯学習市民講座（地域・子ども交流講座）

地域の特色を活かし、家庭・地域・学校等が連携して、世代間交流や様々な体験活動の機会等を提供し、地域全体で子どもを見守り育てる意識を高め、子どもの健全育成に取り組んでいます。（令和元年度：55,370人参加）

[市民文化スポーツ局生涯学習課]

○青少年ボランティアステーション

青少年の成長に欠かすことのできないさまざまな体験活動を通じ、社会性や協調性を身に付けることを目的に、青少年が参加しやすいボランティア活動の場や機会を創出します。

[子ども家庭局青少年課]

